

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
技術科長代理	中西 潤
統括主査	中谷 暁洋
学術主査	岩本 匡史
技術主査	奥田 重之
主 査	爲廣 理沙子
	町田 麻実
	小谷 哲也
	吉田 光海
	佐々木 啓人
	三角 定弘
	中平 大志
	坂元 弘美
	金口 優生
	森田 庸介
	西 祐樹
	甲斐 貴久
	川崎 勇司
非常勤	西山 侑花（1月入職）
	平田 佳紀（2月入職）
	中筋 隆太（3月入職）

—概要—

臨床工学科では、院内における生命維持管理装置をはじめとした多種多様な医療機器・物品の操作および保守管理業務を行っている。臨床においては、集中治療室、手術室、血管造影室、病棟、外来など各部署での呼吸、循環、代謝、機器関連業務に従事し、日々の診療を支援している。また、多職種で形成されるさまざまなカテゴリーの医療チームに積極的に参画し協働することにより、医療の質向上を意識した活動を目指している。さらに、救命救急センター併設による救命救急医療体制に因應べく、24時間365日院内に常駐する体制とし緊急対応に備えている。

また、災害拠点病院の使命である災害対策にも注力し、実災害を想定した訓練等に積極的に参加している。

当科スタッフに関しては、2018年度は技術科長代理以下17名（うち、病休休職者1名）の体制でスタートした。今年度において国が推し進める働き方改革による勤務形態見直しの一環として、交代制勤務に備えるため、2019年1月より順次スタッフの増員を実施し今年度末までに3名のスタッフ増員（新年度新たに2名増員予定）を達成することができた。これにより、次年度からの業務形態変更の計画について見通しが立つ状況となった。

業務に関しては、昨年度よりひきつづき呼吸、循環、代謝の3つの柱と機器管理の4つの領域を形成し、個々がそれぞれのチームに属し活動を実施した結果、呼吸関連においては集中治療領域での呼吸管理、簡易PSG、CPAP外

来業務、循環領域ではペースメーカー、EPS、アブレーション業務、代謝領域ではシャント管理、PTA業務などといったより専門性に特化した業務活動を遂行し昨年度を上回る成果を得ることができた。しかしその反面で、個人の業務集中度がそれぞれの領域に固執するあまり、他の領域での業務習熟度がやや低迷するなどといった影響が見られ当科全体の組織バランスが不安定に傾きつつあった。そこで、個々のスタッフが臨床工学業務をバランスよく習熟できるように、業務全体を9つの専門分野に細分化した。各専門分野にそれぞれスタッフを3名配置し業務内容について再度マニュアル作成から手掛けることから始め、全てのスタッフが与えられた各専門分野業務に対しスムーズに実施できることを到達目標として、6か月間1クールを期間として2019年1月から開始しシステムの再構築を図った。

また全体的な業務としては、当科が主となる医療機器全般の管理や機器の更新にも積極的に関与することを目標として診療支援に貢献できるように各部署に働きかけ調整を行った。

—認定資格など取得状況—

資 格	人 数
体外循環技術認定士	5名
3学会合同呼吸療法認定士	12名
CPAP療法士認定	2名
不整脈治療専門臨床工学技士	1名
心血管インターベンション技師（ITE）認定	8名
CDR（PM/ICD関連情報担当者）認定	1名
透析技術認定士	11名
臨床ME専門認定士	4名
臨床実習指導者	8名
医療機器情報コミュニケーター（MDIC）認定	3名
人工心臓管理技術認定士	1名
日本DMAT隊員	2名
大阪DMAT隊員	3名

—実績—

当科における2018年4月1日から2019年3月31日までの業務実績を以下に示す。

《呼吸関連業務》

項 目	件 数
院内ラウンド	185回
《RCT（Respiratory Care Team）》	
患者依頼件数	42件
人工呼吸器離脱件数	29件
《睡眠時無呼吸治療関連》	
簡易PSG（Portable Monitor）	67件
終夜睡眠ポリグラフィ（PSG）	12件
CPAP外来	560件
CPAP導入	30件

項 目	件 数
CPAPドロップアウト件数	5件
CPAP転院	11件
ASV導入	4件
HOT導入	1件

《循環関連業務》

項 目	件 数
全体外循環症例	75例
緊急・準緊急症例	19例
(通常体外循環法)	65例
(脳分離体外循環法)	9例
(超低体温体外循環法)	1例
Off pump CABG	0例
EVAR(Endovascular aortic repair)	14例
TEVAR(Thoracic endovascular aortic repair)	5例
回収式自己血輸血	15例

項 目	件 数
ECMO (Extracorporeal membrane oxygenation)	37例
(VA ECMO)	34例
(VAV ECMO)	0例
(VV ECMO)	3例
IABP (Intra-Aortic Balloon Pumping)	39例

項 目	件 数
心臓カテーテル検査	931例
(緊急症例)	114例
PCI(Percutaneous coronary intervention)	301例
EVT (Endovascular Treatment)	19例
EPS(Electrophysiological study)	57例
IVUS(Intravascular Ultrasound)	340例
Rotablator	29例
DCA(Directional Coronary Atherectomy)	11例
FFR(Fractional Flow Reserve)	90例
カテーテルアブレーション	43例

項 目	件 数
ペースメーカー植込み術	41例
リードレスペースメーカー留置術	3例
ペースメーカー交換術	23例
ICD植込み術	7例
ICD交換術	3例
CRT植込み術	2例
CRT交換術	0例
遠隔ホームモニタリング導入	65例
デバイスチェック業務 (遠隔データ解析を含む)	2176例

《代謝関連業務》

項 目	件 数
浄化センターHD	1,935回
ICU/EICU血液浄化	923回
特殊血液浄化	6回
LDL (Low density lipoprotein)	11回
ET (PMX)	0件
CART (Cell-free and Concentrated Ascites Reinfusion Therapy)	4件
PTA (Percutaneous Transluminal Angioplasty)	122件

《その他機器、手術関連業務》

項 目	件 数
新規登録機器	213件
機器修理点検依頼件数	1,349件
ラジオ波焼灼療法	7例
(乳腺腫瘍)	4例

項 目	件 数
(肝臓腫瘍)	3例
整形外科関連自己血回収術(セルセーバー、救命センター含む)	70件
整形外科関連自己血回収術(オーソパッド)	80件

—今年度の成果と反省点—

関連部署および各領域において、例年に比べ、呼吸関連業務、心臓デバイス関連業務またシャントPTAなど特定の領域での業務が増加し、個々の努力を含め一定の成果がもたらされている結果であると感じている。今年度部署目標であった医療資機材の効率的な活用および適正な在庫管理に関しては、不良在庫などの管理調整がまだまだ改善の余地はあると考える。当科が計画立案から実行に至るまで関連部署と協力しながら主導的立場で活動していく必要はあると感じている。またそのために今年度設定した業務割を速やかに確立することが必要である。

—来年度への抱負—

2019年1月スタートした新たな業務割システムについては、まだ始まったばかりではあるため次年度以降での評価となるが、新システムにおける当科の取り組みを推し進め一層の飛躍に努めていきたいと考えている。

人材については、スタッフが順調に増員され認定資格などの取得なども顕著に増加し個々が専門領域に対するさらなる情熱やスキルアップなど着実に成果がみられる一方で、個人差による業務能力格差なども生まれてきており、各スタッフが可能な限り同じレベルに到達できるように再度調整が必要な状況となっている。今後もさまざまな分野において各スタッフが認定や資格など取得し易い環境を整えていく必要がある。

今年度の反省点や成果を踏まえ今年度設定した組織改革の実現を目指していくことを来年度の抱負に掲げたい。